

研究結果報告書

所属 韓国外国語大学校

役職 講師

氏名 黄 允實

研究結果

連体修飾節間の意味関係における言語類型論的研究

—日本語と韓国語を例として—

本研究は連体修飾節間の意味関係に着目し、日本語と韓国語を例として言語類型論的な観点から考察を試みたものである。言語類型論(linguistic typology)は人類の言語に共通する普遍的な性質を発見することを目的としており、本研究では日本語と韓国語の実例を収集し、複合連体句(二つ以上の連体修飾節)内の意味関係と語順の問題を考察することを目的としている。

日本語では、複合連体句内の動詞句と形容詞句の意味関係には特性の同質な側面を述べる場合と異質な側面を述べる場合があり、前者の方が後者より多い。また、特性の同質な側面を述べる場合、動詞句が個別かつ具体的な特性の側面を述べ、それを形容詞句によって一般化・評価づけしてあらためて示す(例えば「すきま風の吹き抜ける古い家だ」)ことが多い。このような特徴をもとに韓国語の場合と比較しつつ言語類型論の視点から一般化を図った。韓国語の場合も日本語と同様、複合連体句内の意味関係には特性の同質な側面を述べる場合(例1, 2)と異質な側面を述べる場合(例3)があることを確認した。また、同質な側面を表す連体修飾語が並ぶ場合には動詞句が個別かつ具体的な特性の側面を述べ、それを形容詞句によって一般化・評価づけして改めて示すという点においても同様な特徴が見られた。

(1) 대부분의 사람들이 초목으로 둘러싸인 좁은 통로로 들어간다.

(「ほとんどの人が草木に囲まれた狭い通路に入る」)

(2) 동정은 필요 없다는 의연한 표정이 눈에 선하게 떠올랐다.

(「同情は必要ないという毅然とした表情が目には浮かぶ」)

(3) 자그마한 몸집에 화사한 분위기를 가진 여자였다.

(「小柄で華やかな雰囲気を持つ女性であった」)

但し、名詞修飾構造においては両言語間に相違が見られ、複合連体句内の意味関係だけでなく、それを含めたさらなる考察が必要になると思われる。名詞修飾関係における両言語の特徴については今後とも続けていく予定である。また、以上のような結果は上級レベルの韓国人日本語学習者向けの教育においても有効であると考えられるため、日本語教育の観点を取り入れた考察も期待できる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

研究会で発表の予定あり

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

投稿準備中

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)